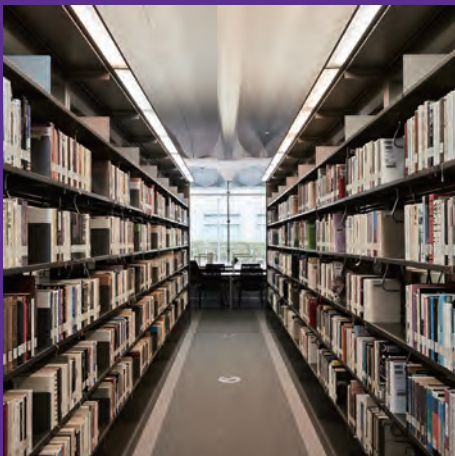




立教大学 新座キャンパス

地域連携活動紹介



地域連携活動紹介パンフレット

立教大学では、大学・学部行事、ゼミナール活動、課外活動（体育会・サークル）などにおいて、地域と連携した活動を数多く行っています。特に、新座キャンパスは、開設当初より「地域に開かれたキャンパス」を標榜し、学園祭 IVY Festa をはじめとした、学生の参画による地域連携・地域開放が盛んです。

この冊子では、その中で主に新座キャンパスの学生たちが関わり、埼玉県内を中心とした事例をいくつかご紹介します。地域貢献は大学の大切な使命の一つです。一方これらの活動を通じて、学生も成長します。私たちを取り巻く地域は、もう一つのキャンパスです。

目次

Scene 1 地域へ開く

聖パウロ礼拝堂（新座チャペル）	1
新座キャンパスのクリスマス	1
学園祭 IVY Festa	2
セントポールズ・アクアティックセンター	3
体育会水泳部 水泳教室	3

Scene 2 地域の学び舎

子ども大学ふじみ・子どもスポーツ大学ふじみ	4
にいぎプラスカレッジ	5
新座市内大学公開講座（教養講座）	6
（クリスマスコンサート）	7
立教スポーツ教室（硬式テニス・サッカー）	8
（野球・乗馬）	9

Scene 3 知の活用

観光まちづくりの提案	10
道の駅との連携	10
新座市長との懇談会	10
埼玉県知事と学生の意見交換会	11
ブラって埼玉 まち歩き MAP	11
RSLー ローカル（地域共生）	12
RSLー コミュニティ（埼玉）「自立と社会福祉」	12

Scene 4 ボランティア

1 DAY ボランティア	13
学生団体の地域活動例	13

※この冊子は 2024 年 3 月に制作されました。
※すでに終了しているプログラムも含まれています。

Scene 1 地域へ開く

立教大学には、聖パウロ礼拝堂やセントポールズ・アクアティックセンター（SPAC）、図書館をはじめとした施設が充実しており、地域の方々にも利用いただいています。これらの施設を活用した取り組みの事例を紹介します。

聖パウロ礼拝堂（新座チャペル）

チャペルは、キリスト教に基づく教育を行う立教学院のシンボルとして、立教新座中学校・高等学校、立教大学の学内行事の会場になるとともに、礼拝を始め、公開講演会やコンサートなど地域に開かれた場所となっています。



地域へ開く

地域の学び舎

知の活用

ボランティア

新座キャンパスのクリスマス

～地域の方と迎えるクリスマス～

大学生たちで結成するクリスマス実行委員会が、各種のイベントで立教のクリスマスを創りあげていきます。クリスマス・イブ礼拝は学生団体による音楽演奏などの礼拝奉仕がおこなわれ、地域の方々約 300 名が参加しています。

新座クリスマス物語

大学の学生団体複数が出演し、聖書の内容に応じて歌やダンスや演奏を披露する劇型コンサートイベントです。

新座キャンパスの主なクリスマス行事（2023 年度の例）

- 12/4 イルミネーション点灯式
- 12/9 オーガニスト・ギルド クリスマスコンサート
- 12/20 新座クリスマス物語
- 12/24 クリスマス・イブ礼拝
- 12/25 クリスマス礼拝



イルミネーション点灯式



「クリスマス物語」学生団体によるパフォーマンス



クリスマス・イブ礼拝



聖歌隊 OB・OG による合唱

学園祭「IVY Festa」

～地域とともに歩む 新座キャンパスの学園祭～

IVY Festa は、学生団体の活動発表の場であると同時に、地域との交流の場として、多くの方々との絆を深める大切な行事です。近隣の知名度も高く、近年は開催期間中にのべ 10,000 名を超える来場者を迎えます。1998 年から始まった IVY Festa は、2023 年に 26 回目を迎えました。

体育会・サークルに所属している学生たちは練習と研鑽の成果を披露し、展示や模擬店を実施するゼミナールや学生団体も工夫を凝らします。ステージでは華やかな演奏会やパフォーマンスなどが繰り広げられ、子ども達が楽しめる企画なども充実し、IVY Festa は「地域のお祭り」として親しまれています。



バルーン・イン・ザ・スカイ



学生団体によるパフォーマンス



学生団体による演奏



模擬店の様子



子ども向けの企画



新座市の小学生による演奏

セントポールズ・アクアティックセンター

St. Paul's Aquatics Center (SPAC)

～ 50m × 10 コースの国内最大級の公認競泳プール～

SPAC は、2015 年に新座キャンパスに開設された 50m × 10 コースを備えた、国内基準競泳プール仕様の室内温水プールです。立教大学と立教新座中学校・高等学校の授業、課外活動で利用されるほか、学生の福利厚生施設として利用されます。

また、地域の子供達への水泳教室、水泳大会への貸出等、地域・一般の方にも利用されています。立教学院の体育・スポーツの新拠点として、また、地域社会の健康・体力づくりに貢献する場として今後ますます活用されることが期待されています。



体育会水泳部 水泳教室

毎年 8 月の夏休み期間を利用して 3 ～ 12 歳の子供達を対象に水泳教室を行っています。2023 年度で 51 回を数える水泳教室は体育会水泳部員全員で企画・準備から実施までを行い、安全で楽しい教室を運営しています。

2015 年度からは会場を SPAC に移し天候の影響を受けない教室の開催が実現できました。



Scene 2 地域の学び舎

社会と連携するにあたり、自治体、企業、そして諸団体や個人との交流を進め、立教大学がもつ知やネットワークを社会と共に活用するような仕組みづくりを目指しています。ここでは地域の学び舎としての活動の事例を紹介します。

「子ども大学ふじみ」「子どもスポーツ大学ふじみ」

～地域で地域の子どもの育てる～

子ども大学は、子どもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子どもの育てる仕組みを創るため、埼玉県が推進している事業です。本大学は富士見総合グラウンドが立地している埼玉県富士見市に協力し、子ども大学ふじみ・子どもスポーツ大学ふじみの運営に協力しています。

2023年度は、子ども大学ふじみに、現代心理学部映像身体学科による身体コミュニケーションワークショップを提供しました。

● 子ども大学「からだを使って伝えよう！～動いて伝える、身体コミュニケーション～」現代心理学部映像身体学科



子どもスポーツ大学ふじみでは、体育会馬術部の協力を得て、乗馬体験の他、馬を知る講義、馬術模範演技披露、餌やり、蹄鉄磨き、写生など多岐にわたる催しにより、馬とふれあう機会を提供しています。

またボランティアサークル等の学生も参加して、小学生のサポートにあたりました。

● 子どもスポーツ大学「馬と友達になって背中に乗ろう」体育会馬術部

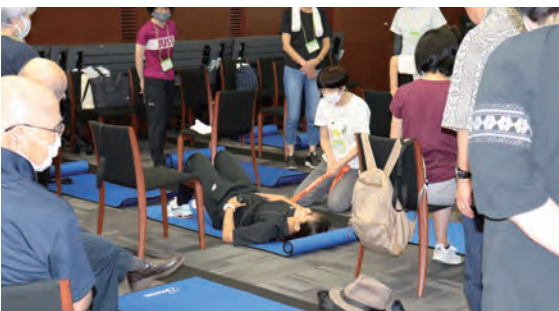


にいざプラスカレッジ

～市民の生涯学習をサポートする～

新座市民総合大学（学長／新座市長）は2000年に開校し、2020年に20周年を迎え、新たに「にいざプラスカレッジ」としてリニューアルしました。新座市の生涯学習推進の一環として、市内3大学の後援により、市民がカリキュラムを受講します。

立教大学ではスポーツウエルネス学部の支援により「にいざサポートコース＜健康づくり＞」を開講しています。修了後は、地域の健康づくり活動や介護予防活動を主体的に推進する、「にいざの元気推進員（介護予防ボランティア）」として活躍することができます。



にいざサポートコース＜健康づくり＞ カリキュラム（2023年度の例）全7回 テーマ：広めよう 地域での健康づくり

NO.	講義内容
1	オリエンテーション 市の介護予防の取組
2	講義／実技 意外と知らない身体のしくみ ～正しいストレッチで健康に～
3	講義 お口の元気はからだの元気！ ～口腔機能を学ぼう～
4	講義／実技 正しく歩いて健康長寿！ ～栄養と健康ウォークについて学ぼう～
5	講義／実技 認知症ってなに？ ～トレーニングで脳を元気に～
6	グループワーク（準備）
7	グループワーク（発表） 修了式



新座市内大学公開講座

～新座キャンパス 4 学部 による教養講座～

「新座市と同市内に所在している 3 大学（立教大学、跡見学園女子大学、十文字学園女子大学）」が連携し、市民の学習機会の拡大に取り組んでいます。立教大学では、新座キャンパスの 4 学部が年度ごとに交代で、市民のための公開講座を対面とオンラインで実施しています。

12 月には新座キャンパスでクリスマスコンサートを開催しています。



公開講演会 現代心理学講座

9/30 日
13:30-15:00
対面・オンライン
定員 500名

「初心忘るべからず」を読み直す
— わざの伝承現場と世阿弥の思想 —

講師：横山 太郎 立教大学現代心理学部 社会心理学科 准教授

読学間は人間の技能について、いかに「下手」を克服し「上手」になるかという難問から知見を上げてきましたが、600年前に世阿弥は同じ「下手の者が研鑽を重ねて、いかに「下手」を克服し「上手」になるか」という難問を再読し、現代の技能伝承の現場の分科と関し合わせ、わざの継承について考察することを学びます。

10/28 日
13:30-15:00
対面・オンライン
定員 500名

赤ちゃんの見える世界
— 視覚の発達心理学 —

講師：白井 述 立教大学現代心理学部 心理学科 教授

生まれたばかりの赤ちゃんからは、この世界はどのように見えているのでしょうか？ 誰の脳は赤ちゃんにたまたまするのにも、自分が赤ちゃんの頃に開いた視野や心、キ、がどのように見えているのか、正確に伝えることができない人はいません。今回は、赤ちゃんが見ている世界がどのようなものかについて、科学的な視点からご紹介します。

スイング・ホリディ
JAZZ meets brass band
クリスマスコンサート

12/2 日
15:30-17:00
定員 300名

立教大学生協会の協賛によるコンサート
を今年も開催します。クリスマスの定番曲やポップスなど、幅広い現代音楽に
楽しんでいるだけでなく、JAZZ
や吹奏楽パフォーマンスをお届けします。

主催
立教大学音楽部吹奏楽チーム
Harmony Of Rainbow
協賛
立教大学 JAZZ 研究会

受講料・参加費無料
要事前予約
詳細・申込みはWeb
サイトをご覧ください。

立教大学 新座キャンパス
立教大学 新座市教育委員会
立教大学新座キャンパス事務局
<http://rikkyu.ac.jp/miz2023>



最近の講座内容

- 2023 年度 現代心理学講座 「『初心忘るべからず』を読み直す — わざの伝承現場と世阿弥の思想 —
「赤ちゃんの見える世界 — 視覚の発達心理学 —」
- 2022 年度 コミュニティ政策学講座 「『絶望を希望に変える経済学』から考える日本の経済・社会—より良い世界を目指す経済学とは?—」
「社会はこうやって変える—コミュニティ・オーガナイズイング入門」

地域へ開く

地域の学び舎

知の活用

ボランティア

～クリスマスコンサート～

2016年度より学生団体「新座吹奏楽サークル Harmony of Rainbow」「立教大学 JAZZ 研究会」による演奏を披露しています。幅広い年代の方々が楽しめるコンサートとなっています。



演奏曲の例

雪だるまつくろう

Jingle Bells

恋人たちのクリスマス

Isn't She Lovely

Xmas メドレー 童謡 ver.

we wish you a merry Christmas

参加者の声

- ♪各メンバーの秀逸なテクニックに感動しました。
- ♪吹奏楽は少人数を感じさせないバランスのとれた演奏で、それぞれ個々のレベルがたかいなあと感じました。
- ♪JAZZ はアレンジも演奏もとても良くて、ソロも楽しめました。
- ♪ジャズ研究会と吹奏楽サークルのコラボは初めてでしたが、ステージセッティングの間も趣向を凝らされたクリスマスクイズタイムのお陰でとてもスムーズ。クリスマスコンサートらしさを一層盛り上げてくれましたし、とても楽しかったです。



立教スポーツ教室

～新座キャンパスに子どもが集うスポーツの祭典～

立教スポーツ教室は、新座キャンパスが開校した1990年以来、毎年開催しています。新座市の多くの子どもたちが、体育施設の充実した新座キャンパスと富士見総合グラウンドに集まりスポーツを満喫します。

「野球」「サッカー」「テニス」「乗馬」4種目の教室を開講し、それぞれの体育会の部員が練習メニューを作成し、当日の運営をします。毎年参加を楽しみにしてくれている子どもも多く、学生にとっても地域貢献ができる貴重な機会となっています。



■参加人数（2023年度の例）



教室名	講師	参加児童人数
乗馬教室	体育会馬術部	16名
硬式テニス教室	体育会硬式テニス部	38名
野球教室	体育会硬式野球部	11チーム 40名
サッカー教室	体育会サッカー部	7チーム 91名



参加者の声

- ・和やかな雰囲気、子供達に分かりやすい講義をしていただきありがとうございました。
- ・質問を投げかけてくれたり、クイズをしてくれたり、楽しそうでした。
- ・選手、マネージャー、皆さんが子供達に楽しい野球を教えてくださいました。
- ・学生の皆様の親切丁寧な教え、かつ、盛り上げようとした姿が好感。
- ・なかなか乗馬体験出来る事はないので、いい体験をさせていただきました。

Scene 3 知の活用

学部や所属しているゼミナールの専門性を活かし、学生が地域をフィールドにして活動を行っている事例を紹介します。地域を第二の教室として捉え、地域の方々と地域社会づくりを共に行える関係を目指しています。

観光まちづくりの提案

～地域と連携して取り組む観光まちづくり～

立教大学観光学部はこれまで、千葉県野田市や東京都小金井市、埼玉県小川町などの地域で観光まちづくりに取り組む行政や民間事業者と連携して、実践的な観光まちづくりに関わっています。

学生たちは、地域に足繁く通い、住民や事業者、行政職員などと交流しながら地域の観光の実態を学んだり、調査結果を発表したりしています。



道の駅との連携

～コミュニティの核となる「道の駅」へ～

立教大学観光学部は全国の「道の駅」と基本協定を締結し、学生の実践的な学びとして様々なプログラムを実施しています。

その一環として学生たちが埼玉県吉見町の「道の駅いちごの里よしみ」と連携して「道の駅」を舞台とした夏祭りを企画・実施しています。



地元のイベントで吉見町観光PR大使「よしみん」のアテンドをする学生



「道の駅夏祭り」の企画アトラクション



「道の駅夏祭り」でのいちご染ランタン作りブース



いちごで染めた和紙を使用したいちご染めランタン

新座市長との懇談会

～新座市内3大学の学生とともに～

新座市内にある3大学（立教大学、跡見学園女子大学、十文字学園女子大学）の学生が、新座市長に政策に関わる企画提案を行っています。

本学からはコミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科の学生たちがその専門を活かし、「デジタルを活用した市民の利便性向上のための取組について」「定住人口を維持するための取組及び転入者数の増加を促進するための取組について」などをテーマに、市長に対して政策提言を行います。



埼玉県知事と学生の意見交換会

～若者の感性を 県政に生かす～

埼玉県との包括連携協定に基づく連携推進の一環として、若者の感性を県政に生かすとともに、学生に対して生きた学習の場を提供することを目的に知事との意見交換会を実施しています。

2023年度はコミュニティ福祉学部の学生が「防災」「男性の育児」をテーマに提言をまとめ、意見交換会を行いました。

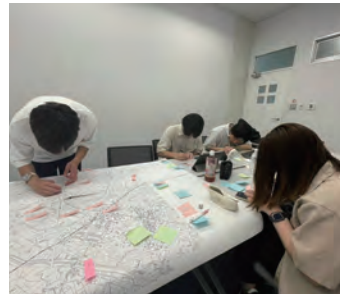


ぶらって埼玉 まち歩き MAP

～12作目を準備中の「ぶらって」シリーズ～

立教大学観光学部は武蔵野銀行との産学連携協定に基づく取り組みとして、2008年度より、埼玉県の観光活性化を目的に「ぶらってまち歩き MAP」や「フリーペーパー」を発行してきました。

2023年3月に発行された「ぶらって草加」はシリーズ11作目となり、つづく「ぶらって朝霞」を準備中です。人と人のつながりに注目して誌面に表現した「ぶらって草加」マップは、草加市の魅力の新たな見方を伝えてくれるものです。



これまでに発行された「ぶらって」シリーズ



<立教サービスラーニング (RSL)> 社会現場での活動と教室における学問的な教育との統合を目指す実践型の正課授業。社会課題の解決に携わる多様な専門機関の指導を得て、一定期間の社会的な活動に取り組み、実践と理論的な学習を統合することで単位が付与されます。

RSLー ローカル(地域共生)

～SDGs とグローバルの可能性・実践～

このRSLの授業では、埼玉県熊谷市をフィールドとして、「農福連携」に取り組む企業での農作業や地域に根ざした「農からはじまる暮らし」の体験（ハンディキャップをもつ方々との農作業やワークショップ、農産物の生産から商品として消費者へ提供される過程についての体験的な学び）をとおして、地域における社会的包摂のあり方やローカルな視点から持続可能な社会をつくるために必要な視点や方法を学びます。



RSLー コミュニティ(埼玉)「自立と社会福祉」

～進学を目指す生徒の学習支援～

埼玉県及び新座市が主催するアサポート=生活困窮者自立支援法に基づく学習支援事業に協力しており、生活保護受給世帯や生活困窮世帯の子どもを対象とした高校進学のための学習教室を新座キャンパス教室等で行っています。また、高校中退防止のため、定時制高校に通う生徒の昼間の生活リズムを整える機会を提供しています。

このRSLの授業では、教室に参加する小中学生への学習サポートを通して、日本の社会保障制度の中心的な政策のひとつである生活保護制度の運用実態に触れるとともに、見えづらくなった貧困と格差、社会的包摂を巡る諸問題についての理解を深めます。



Scene 4 ボランティア

地域の多様なニーズに対応し、大学では、学生団体や個人による様々なボランティアが行われています。その活動をサポートしているのがボランティアセンターです。センターでは、情報の収集や企画の実施、ボランティアに関する相談などを行っており、学生のボランティアを支援しています。ここではその事例を紹介します。

1 DAY ボランティア

ふるさと新座館（新座市 野火止）などで開催された『第8回 大江戸新座祭り』において、立教チームの学生ボランティアが24名参加し、その運営をサポートしました。

立教チームの学生は、時間によって役割を入れ替えながら、会場内の様々な場所で、「射的の屋台運営」「子ども対象の抽選会ブース」「阿波踊り進行サポート」などそれぞれの役割をもって活動しました。

他にも「さいたまマラソン」などでのボランティア活動もを行っています。



地域へ開く

地域の学び舎

知の活用

ボランティア

学生団体の地域活動例

立教大学の学生団体は地域の催し物に積極的に参加しています。新座キャンパス学生団体の活動の一部をご紹介します。



各種福祉施設や地域のお祭りで
ボランティアパフォーマンス活動を行なう
どりいむ・ぼっくす



地域の祭りでダンスを披露するダンスサークルJG



新座市交通安全パレードを彩る体育会応援団



立教大学

立教大学 新座キャンパス

<https://www.rikkyo.ac.jp/>

〒 352-8588 埼玉県新座市北野 1-2-26

2024年3月発行



埼玉県知事とコミュニティ福祉学部の学生が意見交換。「防災」と「男性の育休」をテーマに政策提言

埼玉県知事と立教大生の意見交換会

2023/12/19

トピックス

OVERVIEW

2023年11月22日、大野元裕埼玉県知事とコミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科の学生による意見交換会を、立教大学新座キャンパスで開催しました。この取り組みは埼玉県と立教大学との包括連携協定に基づく連携推進の一環として、若者の感性を県政に生かしつつ、学生に生きた学習の場を提供することを目的としており、埼玉県内の私立大学では初の試みです。今回は「防災」と「男性の育休」をテーマに、同学科の原田峻ゼミと濱田江里子ゼミの学生が政策提言を行い、知事との意見交換に臨みました。

あいさつ

冒頭で西原廉太総長は「埼玉県にキャンパスを構える大学として、地域社会の一翼を担っていきたい。学生たちの提言を何らかの形で県政に生かしていただけるとうれしい」と語りました。続いて、大野元裕知事は「埼玉県が抱える『防災』と『超少子高齢化』という歴史的課題に対して提言をいただけるということで大変うれしく思っている。ぜひ率直なご意見をぶつけていただきたい」と学生たちに呼びかけました。



西原廣太総長



大野元裕埼玉県知事

学生による政策提言

コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科

原田ゼミ1班

タイトル：「あったか、ホッCAMP!～防災×アウトドア×大学～」

原田峻准教授のゼミナールからは「若い人たちに防災への興味を持ってもらうには」というテーマで2つの班がプレゼンテーションを行いました。1班は、若者の防災意識の低さ、これまでの防災に関する施策が若者を引きつけられていない現状に対し、「ワクワク要素」を含んだ体験が必要だと提案。昨今のキャンプブームに鑑み、アウトドアやキャンプと絡めた防災イベント「あったか、ホッCAMP!」を提言しました。

実施場所については、第1回目は立教大学新座キャンパスで試験的に実施し、徐々に埼玉県内の他の大学に広げていく構想を発表。また、従来の防災キャンプはファミリー層が多く、若者の参加を促進できていない点を指摘し、ターゲットを「アウトドアやキャンプに興味がある若者」に絞りました。

具体的な実施内容として、次のようなプログラムを提案。「立ちかまど」を組み立てた野外炊飯。非常用発熱剤を使った調理。テント・寝袋・ランタン等の試用。キャンプ用品の展示会や参加者同士のフリーマーケット。ビンゴ大会や星空鑑賞。映像による防災学習。段ボールベッドの作成・使用。これらの案をタイムスケジュールと合わせて紹介しました。加えて、運営組織図や各関係者が得られるメリット、想定費用などの説明がありました。

以上のような防災イベントが、個人の防災意識改革と、防災に対する強固な基盤作りにつながると強調した1班。「埼玉を防災意識改革のパイオニアに～埼玉から全国へ!～」というメッセージで提言を締めくくりました。

原田ゼミ2班

タイトル：「LINEでミチカ防災～ポイ活で防災を知る第一歩に～」

2班は、さまざまな調査結果から、防災施設や防災イベントに興味を持つ若者が少ないこと、若者が防災に触れるハードルが高いことを課題として提示。そして、多くの若者になじみ深いコミュニケーションアプリ「LINE」を活用して防災意識を高める施策を提言しました。

そのスキームは、埼玉県LINE公式アカウントと連携したポイント制度を構築し、防災クイズや、防災施設・防災イベントへの訪問を通してポイントが貯まり、各種景品と交換できるというもの。他の自治体での先事例も紹介しつつ、詳細をガイドブックや防災ポイントの画面などを交えて解説しました。

また、ツールとして「LINE」を採用した理由、クイズ形式を取り入れた理由などについて調査結果をもとに説明。景品にはアイスクリームの「LINEギフト」や、埼玉県にちなんだスポーツやアニメとコラボしたグッズを採用するアイデアを提案。さらに、3カ月周期という実施期間や、資金の調達にガバメントクラウドファンディング（政府や自治体が行う寄付制度）を活用するといった案を披露しました。



原田ゼミ1班



原田ゼミ2班

「防災を身近に感じてもらうためのきっかけは何でもいい。できることから一つずつ取り組んでほしい」というメッセージとともに発表を終えました。

コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科
濱田ゼミ
タイトル：「埼玉県の中小企業から始まる男性の育児休業取得促進」

濱田江里子准教授のゼミナールは「男性の育休」をテーマとして取り上げました。まず、法律で定められた制度であり、労働者の権利であるにもかかわらず、低い取得率に留まっている男性育休の実態を説明。そして、埼玉県内の企業の99.8%が中小企業であり、そのうち半数程度の企業が人手不足に陥っている現状から、中小企業に特化した男性育休推進の施策を提言しました。

男性育休取得における課題として「人手不足／業務引継ぎ」「知識不足」「社内の雰囲気」の3つを提示。それを解決するために提案したのが「地域業務委託システム」です。



濱田ゼミ



濱田ゼミ

人手不足については、これまで派遣会社などから人員を補うことが解決方法だと考えられていました。しかし、派遣された人に業務引継ぎや人間関係構築などの負担があり、「業務委託」という形をとることでデメリットを最小限にしようというのが、この施策の狙いだといいます。

システム上では、「業種」「所有している機械」「受託可能な業務」といった条件で企業の検索が可能。ただし、委託するとなると、自社で仕事をこなしていた時よりも利益が減少します。そこで、業務委託に対する助成金の申請をシステム上で簡略化する仕組みを提案しました。

育休への知識不足に対しては「育休パパコミュニティ」を設置し、経験者から有益な情報を得られる仕組みを整備。また、「社

内ポータルサイト」を設け、社員の育休取得率、育休に対する意識などを共有し、育休を取得しづらい雰囲気の改善を図ります。「これらのツールの相乗効果で、男性育休取得に関する課題を解決したい」として、提言を締めくくりました。

各グループのプレゼンテーション後は、大野知事と西原総長、学生による質疑応答があり、活発な意見交換が展開されました。

意見交換会を終えて

大野 元裕 埼玉県知事

時間をかけて政策を作り込んでいただいた様子が見え、感心しました。提言の中身は、目からうろこが落ちるようなもの、将来につなげていくことが可能なものがあり、我々としても大変ありがたかったです。

西原 廉太 総長

埼玉県にキャンパスを構える私立大学で初めて県への政策提言の場を設けていただき、大変光栄に感じています。新座キャンパスには4つの学部がありますので、このような機会を他の学部にも広げていけるとうれしく思います。



屋田 章吾さん（原田ゼミ1班）

学生ならではの政策提言ができたという手応えはありました。質疑応答では発言に少し矛盾が生じてしまい、自分たちの主張をうまく伝えることができなかったので、その反省を今後に生かしたいです。

庄司 歩さん（原田ゼミ2班）

半年前くらいから週2～3回のペースで集まり準備を進めてきました。「こんな提言をしても大丈夫かな……」という不安はありましたが、知事に自分たちの気持ちを受け止めていただき、ホッとしています。

李 佳俊さん（濱田ゼミ）

自分たちが政治に影響を及ぼすことができる機会はなかなかないので、参加できてうれしく思います。人前で自分たちの考えを伝える難しさを実感しましたが、今は充実感でいっぱいです。

※学生は、いずれもコミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年次。

静間 優花さん（原田ゼミ1班）

防災について調べ、政策を考える中で、私自身も防災に対する意識が高まりました。知事の前で発表するのは緊張しましたが、主張を時間内に収めるのは大変でしたが、自分たちの考えをしっかりと伝えることができたと思います。

小堂 佳波さん（濱田ゼミ）

知事に政策提言を行うのはとても緊張しました。貴重な機会をいただき、光栄に思います。今回の経験を通して、目的意識を持って学習に取り組むことができ、チームの結束力や集中力が高まったと感じています。



原田ゼミ



濱田ゼミ

※記事の内容は取材時点のものであり、最新の情報は異なる場合があります。